

# 県土づくりの進め方 (達成状況)

指標の評価は、戦略毎に設定した平成24年度の目標指標をどれだけ達成しているかを示す指標として、下記の算定により判定しています。

- ・増加目標を設定している項目の達成率は  
「当年度実績値」÷「当年度目標値」=〇〇%
- ・減少目標を設定している項目の達成率は  
「当年度目標値」÷「当年度実績値」=〇〇%

○ 100%以上	(目標を達成している)	～ 達成
○ 90%以上100%未満	(目標を概ね達成している)	～ 概ね達成
○ 80%以上90%未満	(目標達成度が不十分である)	～ 達成不十分
○ 80%未満	(目標達成度が著しく不十分である)	～ 著しく不十分

# ① 土砂災害の防止

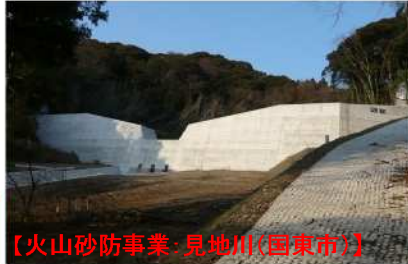
～生命や財産を守るために～

## 【平成24年度の主な取組状況】

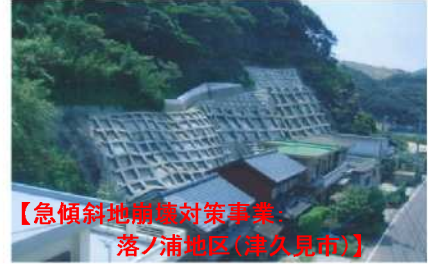
### ●土砂災害防止施設の整備

土砂災害危険箇所において、砂防事業、地すべり対策事業、急傾斜地崩壊対策事業を実施し、24年度は県下48箇所て人家を保全しました。

**新たに309戸の人家を保全**

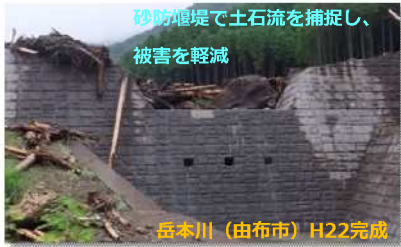


【火山砂防事業：見地川(国東市)】



【急傾斜地崩壊対策事業：落ノ浦地区(津久見市)】

### 【これまでの整備により効果を発揮した事例】



砂防堰堤で土石流を捕捉し、被害を軽減

岳本川 (由布市) H22完成



砂防堰堤 (スリットダム) で流木を捕捉し、下流への被害を軽減

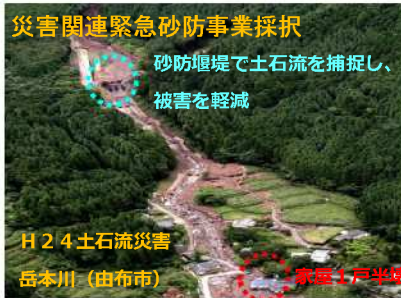
滝水川 (竹田市) H3完成



砂防堰堤 (スリットダム) で流木を捕捉し、下流への被害を軽減

所小野川 (中津市) H4完成

### 【参考：H24.7月 梅雨前線豪雨による緊急的な土砂災害対策 (H25完了予定)】



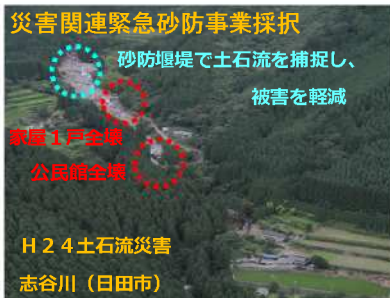
災害関連緊急砂防事業採択

砂防堰堤で土石流を捕捉し、被害を軽減

H24土石流災害

岳本川 (由布市)

家屋1戸半壊



災害関連緊急砂防事業採択

砂防堰堤で土石流を捕捉し、被害を軽減

H24土石流災害

志谷川 (日田市)

家屋1戸全壊

公民館全壊



災害関連緊急急傾斜地崩壊事業採択

H24岩け崩れ災害

柿坂地区 (中津市)

家屋一部壊壊

耶馬溪支所

※上記の内、岳本川・志谷川は、緊急的に砂防ダムを設置する災害関連緊急事業に加え、H25より新たに砂防ダムを追加設置する特定緊急砂防事業に着手

### ●減災に向けたソフト対策の推進

減災に向けたソフト対策の取り組みとして、雨量情報、大分地方気象台と連携した「土砂災害警戒情報」、「土砂災害危険度情報」等の防災情報を、県のホームページや携帯電話を利用したメール配信などにより提供しています。また、土砂災害から住民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域を指定し、県のホームページで提供しています。さらに、小学生を対象とした親子ふれあい教室の開催、NPO法人大分県砂防ボランティア協会と協働した自然災害防止に関する説明会等、土砂災害防止について啓蒙・啓発を行いました。

【土砂災害危険度情報】

【土砂災害警戒区域情報】



【親子ふれあい教室】



【一日砂防教室】



【自然災害防止説明会】



【砂防展示会】

### 【目標指標の達成状況】

土砂災害から守られる人家戸数		10年前	H16年度 (計画時)	H24年度	H25年度	H27年度 (目標値)
	目標値a	—	—	26,062	26,342	26,800
	実績値b	10,352	22,281	26,191	—	—
	達成率b/a	—	—	100.5%	—	—

### 【業績評価】

※土砂災害の危険性のある地域に存在する人家は、県下に約96,000戸

達成	けんち 見地川砂防堰堤(国東市)や おちのうら 落ノ浦地区急傾斜地崩壊防止施設(津久見市)など、継続的な土砂災害対策を計画的に推進し、目標を達成しました。(但し、梅雨前線豪雨による緊急的な土砂災害対策を除く。)
----	--

## ② 浸水被害の防止

～台風や集中豪雨に負けない地域をめざして～

### 平成24年度の主な取組状況

#### ● 県下における河川改修事業の実施

県民の生命、財産を災害から守り、安全で快適な生活基盤を整備するという基本方針の下で、25河川29箇所において改修事業を実施し、浸水被害の解消及び軽減を進めています。

#### 有田川河川激甚災害対策特別緊急事業の採択

平成24年7月の梅雨前線豪雨により県北部・西部において甚大な浸水被害(全半壊・床上浸水:1,204棟、床下浸水:416棟)が発生しました。一級河川筑後川水系有田川沿川においても、洪水時の流下能力不足や橋梁・堰などによるせき上げにより半壊1棟、床上浸水61棟、床下浸水52棟の甚大な浸水被害が発生しました。このため、概ね5年間で緊急的に改修工事を行う、河川激甚災害対策特別緊急事業が平成24年11月に採択されました。



#### ● 河川監視カメラの映像配信

昨年の豪雨災害で甚大な浸水被害が発生し、被災地で開催した水害対策会議の場で被災箇所の早期復旧に加え、河川の状況が分かる監視カメラ設置の要望がありました。

そこで、補正予算を活用し、周辺住民の方々の早期の避難行動や市町が発令する避難勧告や避難指示の判断に資するため河川監視カメラを設置し、本年6月から映像の配信を行っています。



### 目標指標の達成状況

		10年前	H16年 (計画時)	H24年度	H25年度	H27年 (目標値)
時間50mmに対応できる河川(河川整備率)	目標値a	—	—	41.0%	41.3%	42.0%
	実績値b	33.1%	38.3%	40.3%	—	—
	達成率b/a	—	—	98.3%	—	—
床上浸水対策が行われた地域数	目標値a	—	—	29	30	30
	実績値b	—	—	30	—	—
	達成率b/a	—	—	103.4%	—	—

※改修が必要な河川は、県下に1,824km

### 業績評価

概ね達成	計画的な事業展開と早期の効果発現に努めた結果、河川整備率の進捗については概ね目標を達成しました。また、床上浸水対策については目標を上回る達成率となりました。
------	--

### ③ 地震災害への備え

～突然の発生に備え、地域を守るために～

#### 平成24年度の主な取組状況

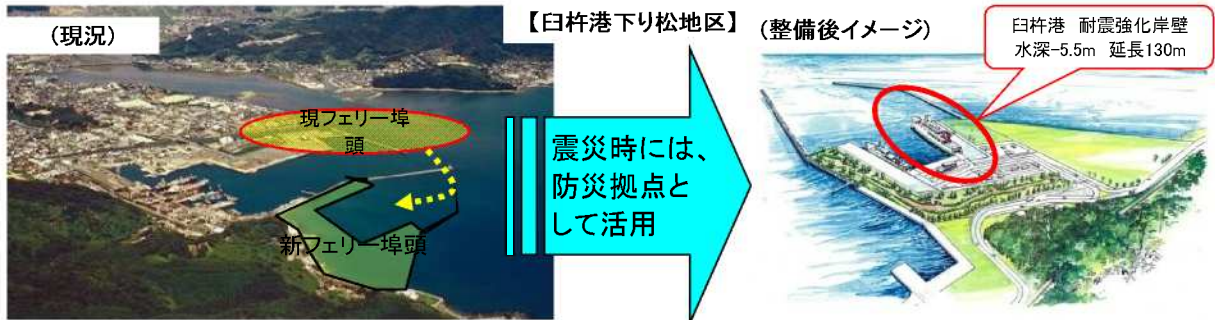
##### ● 緊急輸送路の整備

地震直後から必要となる緊急輸送を円滑かつ確実に実施するため、17年度から19年度の3箇年で、まず県都大分市と12生活圈域の中心都市を結ぶルート等の橋梁の耐震化を進めてきました。20年度から、圏域の中心都市と旧町村部を結ぶ緊急輸送路にある橋梁の耐震化を促進しています。



##### ● 耐震強化岸壁の整備

震災時の防災拠点として、臼杵港に耐震強化岸壁を整備しています。

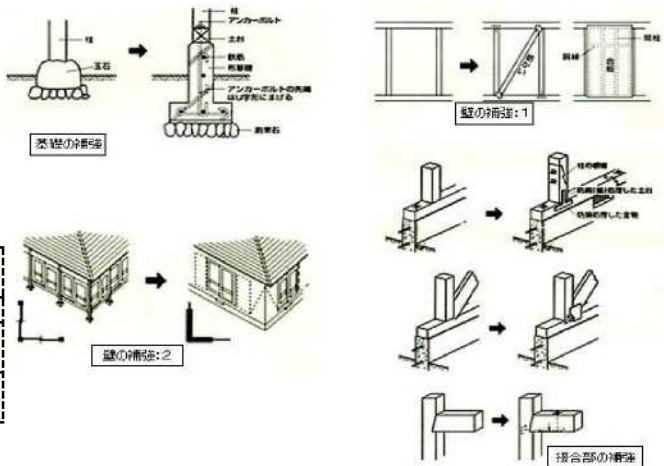


##### ● 住宅の耐震化の促進

木造戸建て住宅の耐震化を促進するため、国・市町村とともに、個人が行う耐震診断(18年度開始)及び耐震改修(20年度開始)の費用助成を実施しています。また、21年度からは、耐震・リホームアドバイザー制度を創設し、その住宅に応じたマンツーマンでの情報提供を行うこととしています。

(参考)耐震補強工事の事例

①基礎の補強	基礎を鉄筋コンクリート造にしたり、断面を大きくしたりします。
②壁の補強:1	筋かいや構造用合板を設置します。
③壁の補強:2	開口部を減らして筋かいや構造用合板の入った壁にします。
④接合部の補強	柱と土台、柱と梁、筋かいと柱等の接合部を金物で補強します。



#### 目標指標の達成状況

		10年前	H16年度 (計画時)	H24年度	H25年度	H27年度 (目標値)
耐震性能を有する住宅の割合 (*H20の実績値は、H20年10月住宅・土地統計調査による推計値)	目標値a	—	—	—	H25.9の土地統計調査を元に作成予定	90%
	実績値b	35%	68%	H20(70%)	—	—
	達成率b/a	—	—	—	—	—
緊急輸送道路における 橋梁耐震補強率	目標値a	—	—	70%	81%	90%
	実績値b	—	26%	72%	—	—
	達成率b/a	—	—	102.9%	—	—

#### 業績評価

※19年度までは『橋梁耐震補強3箇年プログラム』に基づき橋梁耐震化を実施してきた。今後は、22年5月に策定した『大分県橋梁長寿命化維持管理計画』に基づき、橋梁耐震化を実施予定。

達成	緊急輸送道路における橋梁の耐震化については、ほぼ計画どおり行いましたが、発生が危惧される東南海・南海地震などに備え、更に各種地震対策を推進する必要があります。
----	---

## ④ 交通安全

～安心して利用できる道をめざして～

### 平成24年度の主な取組状況

#### ●通学路緊急合同点検の実施

全国で相次いだ通学路での事故を受けて、平成24年5月に学校・警察と連携して通学路の合同点検を実施しました。点検の結果、道路管理者として県が対策を行う箇所が227箇所抽出されました。

○通学路緊急合同点検の実施状況



○土木事務所による通学路指導

#### ●通学路安全対策の実施

通学路緊急合同点検の結果を受けて、通学路の安全確保のための対策を重点的に行いました。

○両子山武蔵線(武蔵東小学校校区) 道路敷を活用した歩道整備事例



#### ●昭和通り交差点のバリアフリー化社会実験

昭和通り交差点は歩行者が横断するには、歩道橋を利用しなければならないことから、障がいのある方や高齢者などから「階段の昇り降りが負担である」といった意見が寄せられていました。そこで、バリアフリー化の検討のために、一時的に横断歩道を設置し、歩道者の利用状況、自動車の通行状況を調査しました。

○国道197号(荷揚町)



### 目標指標の達成状況

		10年前	H16年度 (計画時)	H24年度	H25年度	H27年度 (目標値)
死傷事故件数(件)	目標値a	—	—	5,870	5,650	5,200
	実績値b	—	7,822	6,059	—	—
	達成率a/b	—	—	96.9%	—	—
歩行者・自転車の 死傷事故件数(件)	目標値a	—	—	1,360	1,320	1,250
	実績値b	—	1,699	1,278	—	—
	達成率a/b	—	—	106.4%	—	—
県管理道における法指定 通学路の歩道整備率	目標値a	—	—	68.8%	69.7%	72%
	実績値b	—	—	71.1%	—	—
	達成率b/a	—	—	103.3%	—	—

### 業績評価

概ね達成	交通事故の発生状況は減少傾向にあります。引き続き、合同点検要対策箇所などの通行に危険な箇所の安全対策を行っていきます。
------	---

## ⑤ 水資源の確保

～安定して利用できる水資源の確保を目指して～

### 平成24年度の主な取組状況

#### ●大分川ダムの整備状況

国土交通省は、洪水時の流量調節(430m<sup>3</sup>/s)や下流の既得取水の安定供給、河川環境保全のための維持流量確保及び大分市の水道用水の確保などを目的として、大分市大字下原地先にダム建設を進めています。

21年12月の「できるだけダムに頼らない治水」への政策転換を受け、ダム本体工事に着手するかどうかの検証対象となりました。

22年9月、国から九州地方整備局に対して検討・指示があり、約2年半に亘る「関係地方公共団体からなる検討の場」等を経て、24年7月末、国土交通大臣が事業継続と決定しました。

25年3月に付替市道橋「まんじゅう大橋」が完成し、25年度は本体工事に着手する予定です。



#### ●大山ダムの整備状況

独立行政法人水資源機構は、洪水時の流量調節(570m<sup>3</sup>/s)や下流の既得取水の安定化、河川環境保全のための維持流量確保及び福岡都市圏域や福岡県南地域の水道用水を確保することを目的として、日田市大山町に多目的ダムを建設してきました。

昭和58年度に建設が決定して以来、約30年の歳月を経て24年度末に完成しました。

